

里山 ICT 能開学校について

<趣旨>

- ・未就労となっている若者約22万人（15歳から24歳の若年無業者）。
- ・就職したけど、思っていた仕事と違っていたり、複雑な人間関係に耐えきれず「早期退職」をして、転職意欲喪失してしまえば、そのまま、引きこもりとなってしまふ若者の存在。そうした若者を支援するところは残念ながら存在せず、再スキルアップの場として提供。
- ・自立及び就労に向けて、「親離れ子離れ」の環境作り。
- ・直近の半年ないし1年を、（当学校）で職業技術のスキルアップに向きあったこと、地域社会と触れ合う活動に従事したことなど、自宅に引きこもらずに社会的接触を続けていたことが、就職活動（面接）時の大きな評価因子につながる。

<特徴>

- (1) 保護者を交えた面談後、プログラミング・Web・簿記会計・税法・社会保険給与計算・経営ビジネス・経営分析・ファイナンシャルプランナー・販売士・心理学など12以上の科目の中から、「心の処方箋」を作り、「IT科目」「コミュニケーション技法」「経営ビジネス」のカリキュラムを構築。少人数対応による「オンリーワンカリキュラム」。
- (2) 若者と保護者との面談に基づき、入学者の心理状態と希望を加味して一人一人の歩幅にあわせた100%オリジナルの内容としたカリキュラム
短期就労コース：
能力的に高く、コミュニケーション力も問題なし。保護者の考えとして、「厳しさ」を要望。ビジネス色を中心とした内容。
<午後>本人及び保護者の希望職種で、アルバイトにて100%収入を得る時間。
長期就労コース：
コミュニケーションが苦手。保護者の考えとして、「慎重な対応」を要望。心理的サポート色を意識した接し方と内容及び進捗。
<午後>目標とする資格を決めて検定対策指等を中心とした指導。
- (3) 保護者様向けご報告メール
指導を行った内容：例、Web制作（PC初期設定）
進捗状況：例、初めてのことで少し戸惑いもありましたが、粘り強く取り組んでおられました。
生活状況：例、最近、野菜が不足しているようなのでご近所の農家の方に相談をしてみます。
心の状況：例、・・・笑顔が増えてきました。・・・発言も増えてきました。
※保護者との両輪で、若者をサポートするため日々の様子をメールにて情報を提供して安心と信頼を得るための取り組みを特徴とします。

(4) 推薦書

ニートやフリーターとなっている若者の選考において、担当者から昼夜逆転など生活習慣の乱れを危惧されるため、それを払拭するために当校での様子を判断して、「就労可能」とみなした場合に発行します。

(5) 農業体験

週末は、都会では体験できない自然の中で癒されながら地元のモロヘイヤ生産活動などを通して自分を取り戻し、そして、農産物のネット販売において、地域貢献を目指します。

※未就労となっている若者（引きこもり）の「無料相談会」を実施中！！
対象：本人または家族 要予約 090-1147-0602 尾鼻

ICTで若者の就労支援
学校開設 上郡町の廃校利用

様々な事情から就職しなかったり離職したりする若者を対象に、情報通信技術（ICT）などの習得を通じて就労を支援する「里山ICT能開学校」が、上郡町野桑の旧飯沼小学校内に開設された。廃校になった校舎を利用し、若者の滞在で「地域活性化にもつながる」と期待されている。

校長を務める尾鼻弘光さん（右）は写真右（神戸市長田区）は長年、専門学校で経理などを指導。過酷な職場環境や複雑な人間関係に耐えられず離職した若者が、定職に就かず、引きこもったりする若者たちと接してきた経験から、職業

技術の向上を目指し、地域との触れ合いや意思疎通の力も高められる場を提供しようとして、就労支援施設の開設を計画。町や地元との協力もあり、2012年に廃校となった同校舎の胡蝶教室を改修することになった。授業期間は半年間で、遠方からの入学者には町内の

廃校活用し若者の就労支援
旧飯沼小にICT学校を開校

上郡・飯沼・赤松小学校の統合より半成2学年3月末に廃校となった旧飯沼小学校跡地に、4月から一般社団法人地域再生推進委員会「里山ICT能開学校」を開校することになった。

対象は高校や大学などの新卒者や中途退職者で、ICT関連の就職を目指す若者、学校近くの空き家でシェアハウスを生活して自立を促し、Web制作などのICT技術や経営学などを学ぶ予定でスキルアップ。地元農家での就労体験や地域住民との交流、ネット販売などの連携を通じてコミュニケーション能力を向上させ、卒業後はICT関連企業への就職や起業を目指す。

代表理事の尾鼻弘光さんは「廃校と空き家を教室と就労体験・支援施設として有効活用し、ICT企業のサテライトオフィス運営などで地域活性化を図りたい。これらをモデルケースとして全国へ発信し、若者の移住やICT企業の誘致、起業に繋げたい。将来的にはテクノパークなど10棟・約1300坪を有する予定」と話した。

また地域官報の一端として、一般向けIT講座を開講する。6回コース（3ヶ月）でスマホの危険性やメール、格安スマホと格安SIMのオプションなどを学ぶ。受講料500円×6回。町内在住・勤労者対象。申し込み・問い合わせは090-1147-0602（尾鼻）URL: http://shirayama-shimbun.jp

◇ICTとは 情報通信技術「Information and Communication Technology」の略称。最近では情報通信技術を利用してのコミュニケーションの重要性を伝える意味で、ICTよりもICTの方が一般的に使われるようになってきた。

読賣新聞掲載
 H29.5.13

空家があっせん。午前中は、プログラミング技術やウェブサイト制作、経営ビジネスなど学び、午後はアルバイトなどで就労を体験。週末には農産物の生産やインターネット販売などにも加わってもらい、地域との結びつきを深める。

地元の小学生を対象にしたパソコン教室も開く予定で、今春、情報システム専門学校を卒業した姫路市西脇の尾鼻俊介さん（20）の写真が指導する。

加藤、入校を受け付けており、尾鼻さんは「出口の见えない若者に、やりがいを見いだせる環境を提供したい」と話している。

学費や授業内容などの問い合わせは尾鼻さん（090-1147-0602）。